山岳クラブ／グーテンタータ（ドイツ語　こんにちは）

月　報　やまふみ

No.221　2014 年（平成 26 年）4月6日発行山踏み

春近し鍬崎山

会　　長　／MT
事務局長　／TK
ホームページ／http://guten-nagano.com/
編　　集　／ UR　TT　ST
印　　刷　／ 中央プリント株式会社

もくじ

山行報告（1/25～3/22）・・・・・・・・・・・・1～11
来月担当者&編集後記・・・・・・・・・・・・・・11

★1月25日(土)　妙高前山滝沢尾根山スキー(個人山行)

L　：K原　　K池　K津　T井

リフト上1500m(9:35)　……1932m前山（11:05～:25）～～1000m沢（13:30）～～スキー場 P（14:00）

毎年恒例の前山。登り標高差 430m だけで 930m のツリーラン＋ゲレンデ滑降を楽しめるズク無し中高年に大人気のラクラクスキー。今回は4名でトライ。

チケット売り場・ゲレンデトップに今日も外人さんを含む多くのツアラー。先行者のトレースはあまり効率良くないが後を辿る。小休後クトー装着して雪崩気になる大斜面に取り付く。今日は落ち着いている模様。肩に出てからそのまま山頂へ向かう。山頂には先行者数名。

小休後最初のネック、狭い尾根へ滑り出す。雪は軽く回転は楽。1850m 先のコース唯一の中急斜面で L 、トレース無い面にドロップしたところ、スキー外れて転到。スキーを拾 いに戻りたくても雪が深すぎて全く身動きできない。たまらず上の K 津さんに助けを乞う。バネが弱すぎたようだ。

さて、1800m 下の本コース最良最大△無木バーンに到着!!　天気 OK　！　雪質 OK !!

さあ、行こう!!!　～～～おお、チョーキモチいい!!!!　(^O^)／　これだから真冬のパウダーは止められないんだナ～❤　(とっくに還暦を過ぎた爺さんがこんなにはしゃいでエエものか…?　)各自思い思いに粉雪を堪能。次は右手の尾根に向かって林間に吸い込まれる。ここもグー!　滑降→集結→滑降→集結　を繰り返し、疎林を縫う。斜度が無く M 井さん・S 川さん・S 谷さん・T 島さん etc.のような上級者には物足りないだろうが、自分にはうってつけ。充分に楽しむ。下るにつれやや雪は重くなる。怪我がまだ完全治癒してない T 井さんはちょっと疲れが溜まってしまったよう。途中 1200m 付近で小休。そういえば途中休憩取らずだった。T 井さんゴメン m(_)m

その後は2本の背尾根の間を滑ってドロップポイントに繋がる左支尾根に向かう。程なく到着。急斜面を横滑り

で滝沢に降り、僅か登って暫しトラバースを続ければゲレンデ到着。
　帰路は何時ものように格安妙高♨(50円値上がり→それでも安い!)と駅前のこちらも格安太蕎麦を食して終わり(*^_^*) （自分はやっぱ樹香の蕎麦がイイナ～）

K 原記

★　2月22日（土）　青田難波山（949m）山スキー （個人山行）

メンバー：M 井 (L)、T 島 （S L）、K 津、S 木、K 池

行程:8:30 青田集落発 → 12:30 山頂直下 910m地点 → 12:45 山頂直下発 → 15:00 青田集落着 → 新井道の駅

　妙高から日本海へと続く頸城の山々は高さ 1000m前後とそれほどでもないが、豪雪地帯ゆえ雪を真っ白に被った山スキー向きの山がたくさんある。そんな中にある青田難波山、粟立山のテント泊での頸城方面山スキー計画初日は、まずは青田難波山から。
　小布施スマートICで合流、T 島さんとK 津さんの車に分乗して青田集落を目指す。途中、新井道の駅でテントを張れそうなよい場所がないかと見てみたが？であった。青田集落出発地点の川沿いの道は重機が止まっていたため場所を変えてやむなく路駐。周辺の雪は先週の長野の大雪にもかかわらず量的にはたいしたことはなく、かなり少なめ。いつまで春スキーができるか危ぶまれる量である。

　8:30 川沿いの林道を辿って出発するが高低差はあまりなく、のどかな里山歩きといった感じで、天気は今一つの曇り時々雪状態ではあるが歩いていてそれなりに楽しい。所々ショートカットしながら林道から登山道への分岐点にある平原に到着。ここからようやくそれなりの登りとなるが、地形が意外と複雑でアップダウンがある。昨日からの積雪が少々ある程度で、くるぶし程度のラッセルは大したことはない。帰りのルート取りを相談しながら、やがて真っ白で良さげなオープンバーン（木落し坂というらしい）の下部へ到着、滑る斜面をいろいろと検討する。どこを滑ってもよさそうだったが、斜面に向かって左側を下まで滑って登りかえすこととなった。ここからは急斜面のラッセルへ。少しのアルバイトの後、斜度は徐々にゆるくなり、やがて山頂平原へと続くブナの疎林尾根へと続く。そのうち斜度はほとんどなくなり、真っ白な平原へ到着。12:30 このまま30 分も行けば山頂であろうが、天気が下り坂で雪も降りだし、視界も悪くなってきたので、ここが山頂？ということで行動停止。各自準備をして滑降を開始する。

緩斜面のブナの幼木疎林は、雪も重めでそれほどいいとは思っていなかったが意外とスキーが滑って各自快適な格好を続ける。やがて木落し坂上部から本日一番の滑降が待っていた。真っ白い斜面にそれぞれトレースを刻んでいく。一気に落ちて行きたいが脚が持たず途中止まりながらもすぐに下部まで滑り込む。下から見上げた斜面はまだまだ左側にノートラックの斜面が大きく開いている。もうちょっと右から滑り込んだ方が良かったとトレースを見ながらの楽しいランチタイムとなった。

ここからはアップダウンにつかまらないようにしながら登ってきた林道へと合流。ところどころショートカットしながら、途中の水場（青田　花清水）でペットボトルにおいしい水を補給し、15：00　青田集落へたどり着いた。

翌日も粟立山を予定しているため、上越の温泉まで足を延ばしてゆっくりと汗を流し、高田の「軍ちゃん」にて生ビールで乾杯（運転手除く）してから、食べきれないほどの海の幸を満喫。その後新井道の駅に戻ってテント設営をしようとするが、店が 9 時まで営業のためやむなく駐車場に設営して宴会に突入。そろそろ眠ろうかと外に出るとかなりの雪降りで、慌ててテントを売店軒下まで運んで事なきを得た。

M 井記

★2月23日（日）　粟立山　山スキー　（個人山行）

メンバー：Ｍ井　(L)、Ｔ島　（ＳＬ）、Ｋ津、Ｓ木、Ｋ池

行程；9:00（264m）出発→13:00 頂上直下（1060m 地点）滑降開始→14:30（264m）到着

土曜日の青田難波山に続き、土日で2本行なう予定で入る。前夜はアライの道の駅泊。

朝、目が覚めると、外は素晴らしい天気であった。今シーズンは勝ちなしで、青い空とお陽様を拝んでなかったので感動し、ようやく初の白星となった。朝食を済ませ、身支度をし、粟立山の取り付きに向かう。

道の駅から 10 分弱で到着する。既にトレースはあり、一足早く一組が歩きだしていた。それに続き、まずは林道を進む。400m地点あたりから、林道をはずれ、広尾根に取り付いていく。”いい斜面だ。溶けてグサグサになる前に滑りたい”ということになり、200mほど上がって、まずは 1 本滑る。雪質上々。天気もよく、最高。久し振りに快適に滑らせてもらう。当然滑った後は登り返し。ひたすら頂上を目指す。が、12 時頃から徐々に天気が悪くなり、さっきまで見えていた太陽が消えてしまった。当然はるかに向こうに見える粟立山もすっきりと見えず、写真に収めたが今ひとつとなった。900m を超したあたりから、斜度がきつくなり、右は崖であり、尾根も細くなる。先ほど 1 本滑っていないＫ氏が、先に行き 1000m地点あたりで既に待っていた。頂上までいけないかと、私たち（3　人）は先に進んでみる。頂上に向けて、直上で登るには傾斜がきつ過ぎてしまい、地形図からもかなり左から回りこまないと登れないようである。時間も既にいい時間であり、頂上に上っても視界不良でいい景色は見られないということで、ここから滑降となるが、雪面の凹凸はわかりにくい。崩落内の

斜面をおそるおそる滑り始める。滑っていて平衡感覚を失うこと数回あり当然転ぶ。けれども、少し高度を下げると比較的凹凸もわかるようになり、雪面は良く快適な滑りが楽しめる。途中まで谷を滑り、800m地点あたりから、トラバースし登ってきた尾根に取り付く予定でいた。しかし、先に滑っていた一組のパーティのシュプールが、尾根には行かず、そのまま谷に向かっていた。”ん…なんで”ということで、地形図を確認。すると、このまま谷を滑って、万内川にでて、林道に出られることがわかった。尾根に戻ると登り返しもあるので、せっかくの快適な斜面があるのなら、ということで、このまま先のシュプールに従うこととした。久し振りに快適なバーンにであった。斜度もきつくなく、気持ちよくパウダーを滑る。しかし楽しいのはあっという間にフィナーレ。右手に堰堤が見えたら、高度下げず、そのまま堰堤を越して、あとは傾斜を利用しながら、林道にでる。出た林道の右手には、先ほど私たちが最初に滑った広尾根であった。後は林道を滑り終了。結果。天気は前半の 11 時頃までが良かっただけで、その後はまたもや天気に見放され、勝ちなしあったが、雪質と斜面は勝ちであった。

T島 記

★3月4日(火)　赤倉山1910m 肩山スキー(個人山行)

K原

池の平スキー場リフト上(9:35)……カナメ(10:05)……1910m 肩(11：10～11：40)～～スキー場12:40

５日から荒れ予報だが４日は移動性高気圧到来で晴確実なので決行。当初は三田原山予定だったが、４月並の猛暖気でアイスバーン形成＋新雪で取り付き沢の雪崩気になりリスク小さい赤倉山へ。

バーンは完全ザラメ上に湿新雪10cm 程度。気温上がらなければ軽い回転滑降期待できるが…徐々に上昇。シャツ 2 枚だが汗だくで登る。滝沢尾根方面よく見えるが、スキーヤーは見当たらず。ずっと運動不足で調子上がらず休み休みの登行。1870m までのつもりだったが、アイスバーン無いのと、左手よりの先行者が登って行くのが見えたので1910m 肩まで行くことにする。話すと地元妙高の M 橋さんという。40代か? 杉の沢ゴンドラからテレマークで林道経由で来たという。静かなコースなので気に入っているという。下りはカナメ経由で池の平スキー場へ行くというので、自分の何時ものコースを勧めて先に下ることにする。上部は雪も軽めだったが、下るにつれて浅いけれども重い湿雪となる。慣れたコースだと地形図も確認せず滑った結果、予定より右(南)に行き過ぎてしまい、小沢を3本越えてトラバースし、スキー場横の1100m沢に着いた。ここで松橋さんと合流し、ゲレンデを飛ばして P 到着。

後は M 橋さんを杉の沢スキー場 P まで送り、樹香で蕎麦を食して帰宅。

★ 3月8日（土）　三田原山スキー（個人山行）

L：K原　K池　S木

ゲレンデトップ 9：30－稜線到着 11：00 滑降開始 11：30－ゲレンデに出る 13：10－下山（駐車場）14：00

当初の計画は先々週行った粟立山であったが、冬型が続き山頂直下の崩落部分の雪崩が懸念されたため、急きょ三田原山に変更となった。当日の予報は妙高は1日雪。三田原山は出だしの沢が雪崩の不安があるの

で大丈夫かな？と思ったが、だめなら他へ変更もありとのこと。
　長野へ向かう道中は吹雪かれたりして、テンション下がるが、長野に着いてみると意外にも晴れて飯縄や黒姫が見えている。天気は現地へ行ってみないとわからないのが悩ましい。今シーズン、それで現地まで行って登らずして帰ることもあり、それが一番嫌なゆえ、キャンセルも多々あった。
　妙高山はスキー場のみしか晴れていないが、回復の兆し。購入するチケットは、行き用にゴンドラと高速リフト、帰り用に普通リフト各1枚で 1800 円。お二人はシニア料金。上に上ると結構な強風。ゲレンデトップでシールを付けると共に目出帽もかぶる。3月とは思えない寒さ。おかげでパウダーが期待できそうだ。一足先に他パーティーが出発し、後から追いかけていくと、沢を横切った後いつもはそのまま巻いて尾根上を登るのに、先発者たちは横切った後その斜面を直登。あんなとこ登って大丈夫なの？とびっくりしたが、安定しているようなのでトレースをついていく。一応ジグザグにはなっているが結構急なトレース。今年新しくした板とシール故なんとかずり落ちないが、意識して踏ん張って登る。やがて追いつき、ラッセルを替る。自分の番になってみてやっと雪の深さを知る。思っていたより沈まない。これは幅広スキーのおかげか？それでもすぐまた先行者たちに追いつかれ交代となる。風が強く顔が冷たい。ときおり陽が差す。
　稜線は正面から吹き、稜線の北側も南側も風よけにならず。それでも若干火口側に一段下がり休憩。ここまで一度も休まず登ってきた。火口側北側斜面は美味そうな斜面だから1本滑りたかったが、誰も行かず。他パーティが見ている中へタクソなのが一人で下りるのも恥ずかしいし、登り返しのラッセルは相当深そうだし、二人を強風の中待たせるのも悪いし、残念だけど諦める。
　そうなればいざ、下山の滑降開始。三田原はもう何度か滑っているが特徴が少ないのでどうもルートが覚えられない。北原さんにルートを時々説明してもらう。（細かいことは下記キタさんの解説にて。）まずは登ってきたところを少しもどりダケカンバの疎林へ。フカフカのパウダーが続く。若干深めだから油断するとハマって自爆したりもしたが、この冬一番のパウダーでした！ 下部針葉樹林帯も、急斜面もそう。今日の寒さのおかげでゲレンデに出るまでパウダーを楽しめました。いつもは林道からすぐゲレンデに出たが、もう少し林道を横切りながら林を楽しめることがわかる。途中より国際ゲレンデを下まで滑りリフトを1本乗って、元の杉の原ゲレンデへ戻った。

Ｓ木　記

キタさんのおまけコーナー
＊強風時の休憩ポイントは2290m稜線コル・内陣に岳樺の幼木のある辺りです。普通ここは風が弱いです。(冬型時は普通西風ですが、今回北西寄りで少々風あり)
＊山頂への効率良いルートは以前紹介したので略します。

『三田原2290m 稜線からの滑降コース』
色々ありますので、それぞれの特徴とお勧めコースを紹介します。下に向かって左(東側)から。
①スキー場コース
　稜線から標高差440mを滑る。基本は登りルートを辿る。車道までのメインルートの1/2の標高差・1/3の距離で物足りないが、天候状況悪い時などの避難路となる。超深雪で林道のハードな下りラッセルが予想される時はこのコースを選択すべし。但し、沢横断時は雪崩に留意すること。
もう100m強滑って沢を越し、スキー場の旧三田原ゾーンに出るルートもある。

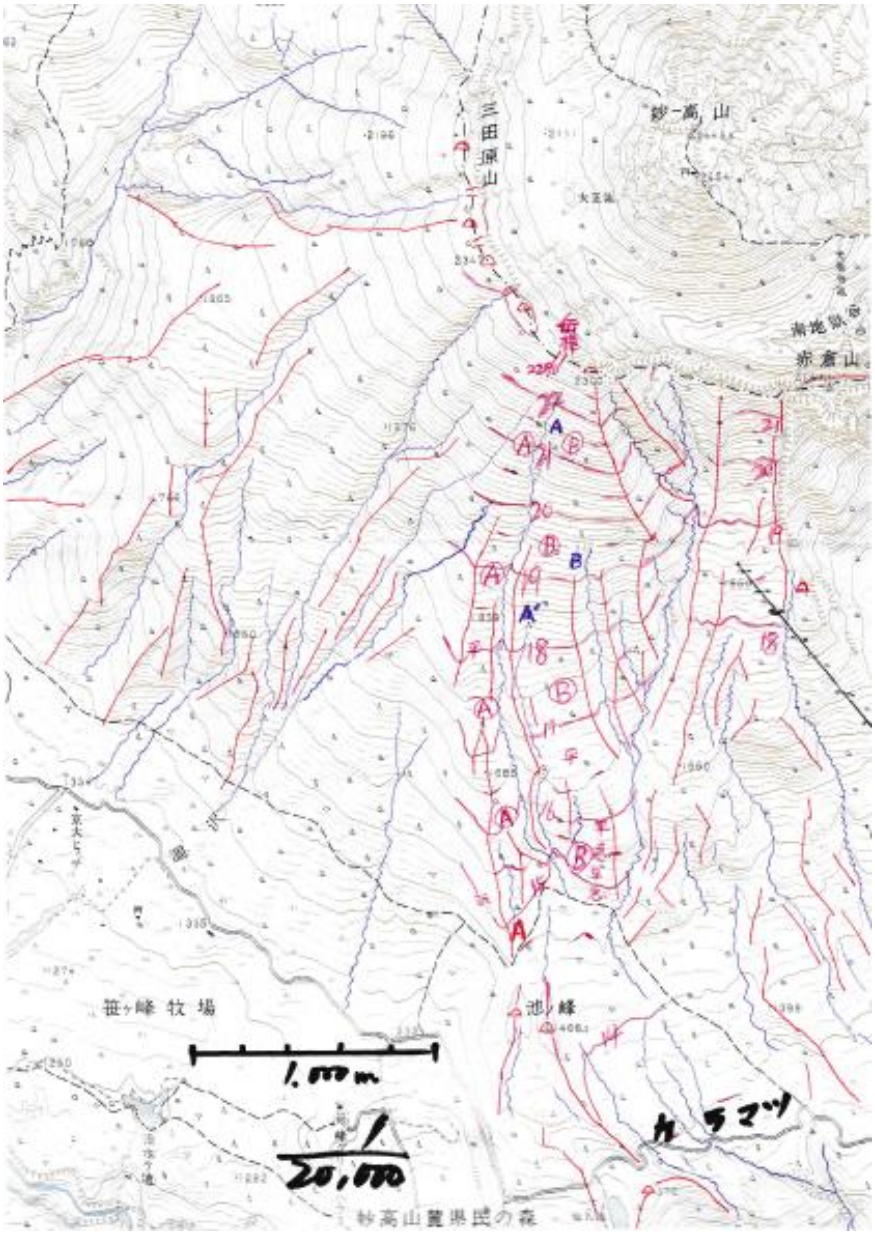
②メインⒷコース
　2290m稜線下70m付近から現れる沢(ガリー)Ⓐと地形図の「1950m」辺りから現れる沢Ⓑとの間にあるオススメ幅広バーン。林道まで標高差約940m。
　このコースは、池の峰へのⒶコースと比べ、地形が単純であり、途中(1700～1800m辺り)の針葉樹もまばらで凹凸もなく迷いにくい。
　30年ほど以前は下部(1470～1600m)のブッシュが濃かったが、木も育ちまばらになってきた。沢Ⓐと

『やまふみ』4月号

Ⓐ´との間と沢Ⓑの左(東)にある細尾根に入らないよう注意すれば、最初から最後まで快適滑降が約束される。上部は岳樺の点在する同傾斜の連続バーン、下部は落葉樹林下の緩急を三回繰り返して車道北の平地に至るコース。今回はこのルートを選択。3月で最高の深雪パウダーを満喫!!!

③サブⒶコース
　2290mからほぼ真下、よく紹介されている池の峰に続く尾根コース。沢Ⓐの右(西)側を忠実に滑れば迷うことはない。途中の針葉樹林は濃く林下の凹凸が激しい。やや地形が複雑で迷いやすい。1600mから主尾根の右斜面に降り、凹地を下れば池の峰左(東)の平地に出る。
　但し、稜線滑り出しや途中で右に逸れると④コースとなってしまう。

④笹ヶ峰方面戻りお疲れコース
　Ⓐコースの右(西)側。池の峰西側の車道や涸沢の絡み打ちに出てしまう。何れも帰りは車道2～3km超過で登りともなり、メリットは少ない。



★3月15日（土） 空沢山（～放山） 山スキー （個人山行）

CL：T島　M井　K津

行程:
8:00（519m）笹倉温泉→10:30 渡渉地点（900m）→12:30 空沢山頂上（1420m）滑降開始→15:00 笹倉温泉到着

今シーズンの山スキーは、まだ一度も快晴に恵まれていない。先週は大渚山～大網へ抜けるルートを計画した。20km も放れた場所に車をデポし、いざ登っていると、青い空が途中からみるみる内に消え、視界不良となる。頂上に着いた時には、どの尾根も見えず、ルートファンティングは難しい状況となり、泣く泣く登ってきたルートを滑り返すだけとなる。この大草連のルートは1月にも滑ったばっかりで、モチベーションは下がった。
　今週末は、朝はやや雲が残るが、昼頃には高気圧に覆われるという予報であり、期待して笹倉温泉へ向

かう。白馬5時集合し、6時半に笹倉温泉に着く予定であった。が、コルチナスキー場あたりから渋滞している。トロトロと走るが、小谷の洞門付近では全く動かなくなった。”なぜ？事故しか考えられない。”と思っていたら、小谷の道の駅手前の急カーブでトラックがブレーキをかけるだけの自然渋滞であった。結局、出発が大幅に遅れ8時となり、あり得ない時間となってしまった。けれども晴天で稜線が良く見えること。時間はともかく、今日は勝ち星であり、これから行く未知のルートに思いをよせ、歩き始める。

焼山に行くいつも林道を歩き800mまで高度をあげる。平坦になると、892mのピークが左に見える。892mと981mのピークの鞍部を抜けるように、左に曲がり、火打山川にでる。徒渉ができるのは900m地点と本には書いてあった。結構大きな川なので、ほとんど雪で覆われていない。本に書いてある通り、900m地点に1箇所だけ雪に覆われており、徒渉することができた。万が一落ちたら…ということで、最初に渡るのは嫌だったので、ここはM氏に先発隊として偵察してもらう。無事渡渉。安心して私も徒渉。反対岸はいきなり急登であり、空沢山に続く尾根となる。当然トレースはないので、ここもラッセル。先週もラッセル。天気は良く空沢山が見える。大変だけど登ったら、今日のメインディッシュのクロ沢に向かって900mの斜面を一気に滑り降りる計画がある。晴天の中でパウダーを滑ることを楽しみにして…空沢山までの高度差は500mであるが、この尾根は結構傾斜がきつく登り応えがある。しかしだ！またしても…1200mを過ぎた頃から視界が悪くなる。気がつけば、ガスがかかり、数m先もよくわからない状態となった。”マジで！なんで？”“今日は今頃から高気圧に覆われる予定のはず…”。とりあえずGPSで位置確認しながら頂上にきた。が、ガスが消えそうな気配はない。回復を待っていたら時間切れとなってしまう。今日の行程は長く、900m下がったら700m登り返し、再び700m滑って終了の予定。今すぐに出発をしなければならないが、まったく視界が悪く断念となり、元のルートを折り返すこととなった。無念…またもや負け星だ。元のルート降りるにしても、凹凸もわからなければ、数m先は見えないため、ゆっくりとトレースから離れず滑ることになる。行きにきた場所に戻り徒渉し、後は林道までひたすら滑って、登って、滑って終了。時刻は15時。予定より早い到着となった。焼山温泉で汗を流した後、ロビーで談話をしていると、ガスは晴れ、稜線が見え、完全に高気圧に覆われているのがわかる天気となった。無念…悔しい…どうして…こう毎週見放されるか…一体誰が悪いのか…理不尽とわかっていても誰かのせいにしたくなる山行であった。

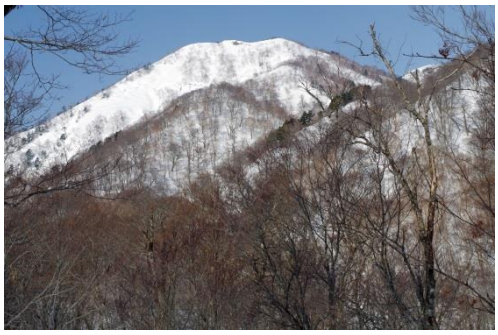
Ｔ島　記

★3月16日（日）　五地蔵山

Ｌ：Ｓ川　Ｙ本　Ｋ林　Ｈ岡

行程　戸隠大橋P発　6：20→1533Mピーク　8：00→牧場分岐8：30→五地蔵山着11：00
→行動食15分間→牧場分岐12：05→尾根取り付き着 13：00→大橋P着13：30

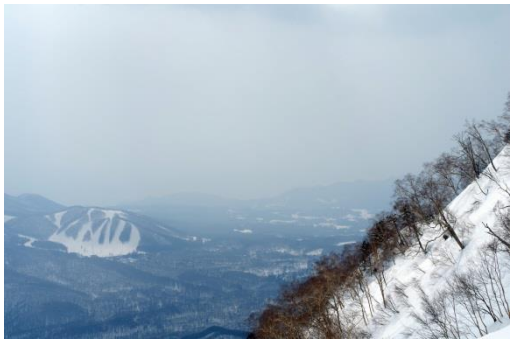
大橋駐車場を出発して林道をしばらく歩くと右手のカラマツ林の後ろから太陽が昇ってきました。1・2日前の雨と寒気で足元の雪は固く締り、非常に歩き易い。最初の尾根に取り付く為に1180M地点でコースを左に取り、「動物的本能」と言いながら、雪原の沢の徒渉点を巧みに探すKさんに、感心。



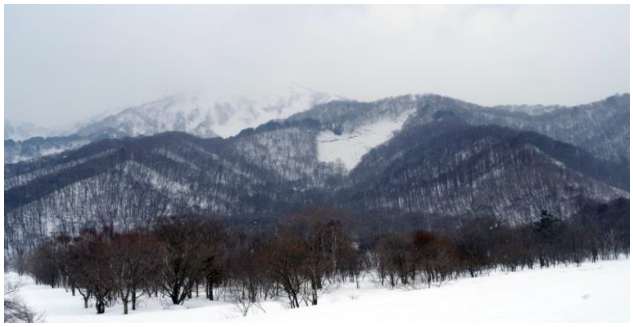
最初の取付場所を GPSで確認して入山、1533M ピークを目指し尾根づたいに登ります。トレースの無いナラ林をSLが始終トップで快調に登っています。尾根は急登。1533Mピークは幅広くブナの木が生えた台地、その根元は根開けが見られ春の近付きが感じられました。しかも、白い雪とブナ林はコントラストが良好。牧場分岐まで辿ると先行者の一本のトレースが現れてきました。ここで、トップ交代「トレースを辿って行くように」と言われ、私がトップに、緩やかなアップダウンを繰り返えす稜線を移動し、五地蔵山に続く主稜線に向かいました。

稜線は、ブナの樹林帯で急斜面が続き、途中で、安全を考えアイゼンに付け変え、ピッケルを差し、アイゼンを蹴り込みます。傾斜があるうえ雪が緩みずるずる落ちる。登り始めて1時間ぐらいして、先を見上げれば五地蔵山頂はまだまだ遠い、左面に張り出した雪屁に注意し、トップを交代しながら、息を切らして、どんどん遠くなる様な山頂を目指す。

アイゼンにつくダンゴになった雪をピッケルで落とす、少し進んで深呼吸。山頂に、到着した時は、ほっとひと安心しました。振り返ってトレースを見つめた。それは、はるか下まで続き辿ってきた稜線が見える。目の前に、広がる景色を遮るものは、何も無い。1週間前に登った瑪瑙山から飯縄山、そして黒姫山等々、達成感がより一層景色を感動的にしてくれました。登りに比べると下りは早い。暖かくなり、雪も腐ってきて、疲れた足に負担が掛りましたが、ワカンに着け替え一気に雪の斜面を下りました。小雪舞う牧場に戻った時は、五地蔵山の山頂は雲の中。



今回は、S.Lから地形図と高度計で位置を照合しながら歩く事を、教わり勉強になりました。また、雪山は、複数人で登り意見交換をし合い安全・ルート確認しながら登るのが大切と実感しました。



H 岡記

★３月１６日（日）　虚空蔵山（個人山行）

Ｕ木

鼠宿7：42－和合城跡分岐 8:39→祠　8:56－林道出会 9:06→林道分岐 9:37→護摩分岐 9:45→陣馬鳥越山 10:07→鳥小屋山 10:43→林道太郎山分岐 1056－頂上 11:52→鳥小屋山 11:52－陣馬鳥声山 1:06－鼠宿 1:39

鼠宿登山口の案内板

膝の痛みが出るので一人でのんびり登ることにした。同行者がいるとどうしてもがんばってしまうので膝に負担がくるので良くない。

前回 2 月 10 日に来たが雪がかなりあり途中で敗退した。先週東太郎山に行くが雪はかなりすくなく上部でもツボ足でなんとかいけてわかんは必要なかったのでなんとかなるとの予想。しかし予想を上回る雪が少ない。鼠宿の駐車は墓場の空き地。雪はほとんどない。前回はここからすでにかなりの雪。

入口に立派な案内板がある。太郎山まで縦走できるようだ。和合城跡まで稜線を目指す。残った雪が硬いので軽アイゼンをつける。右が城跡へ　左は虚空蔵　祠があるので安全祈願をする。

鉄塔

20 分ほどで勝負平林道に出る。ここに立派な案内板がある。無雪期にはここまで自動車でこれる。道路を横断してまた登山道に入る。しばらくすると立派な階段がある。これは高圧鉄線の見回りに作られたもの。20分ほどで鉄塔にでる。しばらくするとまた林道分岐の看板　これが伊部さんの記す勝負平林道コース入口となる。今日は天気が良くて稜線を歩くと坂城町が良く見える。対岸には1月に登った摺鉢山や大林山がそびえている。またさらに遠くに 12 月に登った冠着山もみえる。

勝負平林道の案内図

坂城町　千曲川を望む

稜線には雪があまりない。しばらくすると護摩神社への分岐がある。のぼると岩頭があり陣馬鳥越山の頂である。ちょとした岩頭なので標識がないととても山の頂上とは思えない
ただし眺めは抜群に良い。しばらく歩くと林道太郎山への分岐がある。ここから寅ロープが続くが雪に埋もれてしかも雪が硬いので使えない。それほど急こう配ではないのでピッケルはつかわずストックだけで登る。

ここを過ぎるとすぐに)頂上。頂上には叔母さん軍団が 20 名ほどいたが私は犬を連れていたので離れてビスケットを少し食べて退散する。護摩神社からきたとのこと。来た道を忠実に戻るが東太郎山と違い道がしっかりしていて迷うところは皆無だ。林道出会から風が強くなってきたので歩みをすこしあげて下る。何事もなく駐車にもどる。どうやら東信地区の残雪は終わったようだ。
次回からは北信の里山になりそう。

Ｕ木　記

★3月22日（土）仙ノ倉からシッケイ沢、転じて西ゼン山スキー（個人山行）

CL：Ｔ島　　Ｋ津　Ｍ井

行程：8:30 三国小学校前駐車場発　→　12：00 平標山頂　→　13：00 滑降開始　→14:00 登り返し→　14：40 仙ノ倉山頂　→　15:30 西ゼン滑降開始　→　17:00 群大ヒュッテ　→　19:10 土樽車デポ地点

五竜～唐松登山予定が春分の日の天気予報が思わしくなく、土・日曜日と予定を変更して谷川方面道の駅泊まりの山スキーとなった。本来、土曜日は仙ノ倉からシッケイ沢の山スキー予定。Ｔ島さんと「小布施道の駅」で待ち合わせ、朝方までの降雪でスピードは出せないがそれでも１時間半ほどで中里駅着。Ｋ津さんと合流して１台を土樽へデポしてから元橋へ向かう。

三国小前の駐車スペースはすでに満車で路駐を余儀なくされる。8:30 発、別荘地を抜けて、明るく開けたヤカイ沢方面へ向かう。天気は高曇りで途中から小雪が時折ちらついていたが、この時点ではさほど悪くはなかった。朝までに新雪が 20～30cm積もっていたが、すでにりっぱなトレースが出来上がっておりラッセルの心配もない。

程なく尾根歩きから平標に続く稜線に出るが、ものすごい強風にすぐさま目出帽を着用。風にさらされている雪面はシールが効かず、ツボ足に変えて山頂を目指す。

平標山頂には既に 7～8 人ほどが休憩中、山頂は強風にガスで全く見通しが効かない状態である。小休止の後、

我々はすぐに仙ノ倉を目指す。（ここまでで皆引き返した様子。）山頂付近は氷化しているため、引き続きツボ足で見通しのきかない中の稜線歩き。天気が良ければ仙ノ倉までは快適な稜線漫歩であろうが、地図を出すのも難しい強風にガスの中で山頂と思われる地点に到着（実は一歩手前のピークだった）。

あとで考えれば、ここでミスが重なり痛恨のコースミス。急斜面を 200m程下降して、険悪な地形にようやくおかしいとミスに気づき、強風にガスの続く中、スキーを担いで仙ノ倉まで登り返し開始。T 島さんは担いだ幅広ファットスキーに強風で、飛ばされそうになりながら四つん這いで登ってくる。

14:40 仙ノ倉山頂着。ここでも相変わらず見通しがないので、稜線を歩いて平標山まで引き返そうと鞍部まで来たところでガスが晴れ、青空が広がってきた。時刻は既に 15:30 であったが、土樽方面は下部まで見通せるのでここで西ゼン滑降に変更。先行者のトレースはなし。山頂付近はガリガリだが、少し下がったところからようやく快適な滑降が始められた。途中のノド部分は全面氷化していたが、右端の方に新雪が載っており横滑りで通過、雪は粘り気のある重い雪に変わってきたが、何とかこなして 17:00 群大ヒュッテに到着。ここまでくれば後は林道だけと一安心して休憩したが、ここからの重雪林道下りラッセルが 2 時間以上かかり、到着は陽もとっぷりと暮れた 19 時過ぎのヘッデン下山となった。

途中、風呂で冷え切った身体を温め、車を回収してから「道の駅かぐら」に向かう。駐車場にテントを設営して、鍋料理とアルコールで就寝は 23:00 過ぎとなった。（道の駅内の暖房の効いた室内（秘密）で快適な夜だった。）

M 井記

＊編集後記＊

孫にせがまれて夏の土曜日に田子池にブラックバスを釣りに行った。どうしてもリール付の竿で釣りたいとのことで釣り具屋で教えてもらうが釣り場に行ったら糸がからまり一本竿と同じになった。餌はみみず。結構食いがよくて 4 匹つれた。水槽にいれてみみずをやるとものすごい勢いで飛びつく。冬になってくるとみみずをやっても見むきもしない。病気かなと最初は思ったがどうも水温がさがると魚は食欲がなくなるという結論に達した。夏も冬もじっとしているだけで運動量はさほど変わらないのだが。　／ゾラ

今回は下手な歌にしましょう。　飯縄を隠すしなのの春霞、リンゴの枝に血の通う見ゆ　／エリパパ

２月の記録的大雪のこと…。我が集落は、車はぐるっと田んぼ道を回らないと通りに出られないので、１m近く積もった雪に車を出すのは不可能、歩道確保も厳しい。だったら冬山のつもりでラッセルをするかと山装備フル活用。ワカンでラッセル 200m程。近所の人に異様な目で見られながらせっかく作ったトレースはその夜の強風で消え、代りに巨大シュカブラが出現した。山では楽しいけど、やっぱり生活では雪は嫌だ。
その時出来た雪の山もすっかり今は消え、沢山のフキノトウが頭をだしている。　／とっこ